

明治時代初期の小学校

明治政府の主要な政策の一つに教育制度の確立がありました。明治5年（1872）の「学制」、同12年の「教育令」、同19年の「小学校令」とその制度はめまぐるしく変わり、そのなかで地方行政の最小単位であった「村」は、学校の設置と運営に大きな困難を余儀なくされました。現在の東久留米市を構成する昔の村々もその例外ではありませんでした。

これまで東久留米市域の公立小学校は、明治17年の「成蹊学校」新築開校を遡源とし、それ以前についてはほとんどが不明であり、空白の10年間といわれていました。『東久留米市史』（昭和54年刊）においても、研究課題として残されてきましたが、今後刊行される予定の『東久留米の近代』の調査で、明治初期の小学校の変遷過程がほぼ明らかとなりましたのでその概要をまとめてみました。

明治初期の公立学校の変遷

（第1表）

年	明治7年		明治8年	明治9年	明治10年
村/制度等	5年・学制 6年・大区小区制		8年6月 名称変更通達		11年・大区小区制廃止 12年・教育令
前沢村	三 併 学 舎	前南学舎	前澤学校	柳窪前澤学校	第126番2小学 成蹊学校 (前沢村)
下里村		進明学舎		下里学校	
柳窪村		福德学舎	柳久保学校	柳窪前澤学校	
小山村	黒湧学舎 (小山村)		小山学校	小山学校	第126番1小学 共立学校 (南沢村)
落合村					
門前村				門前学校	
神山村				小山学校	
南沢村	眞誠学舎分校 (南沢村)		田無学校分校 (南沢村)		
柳窪新田					

『日本帝国文部省年報』（国立国会図書館所蔵）・各村方文書・個人文書等より作成

さんべい ぜんなん しんめい ふくとく くらわく しんせい
三併学舎（前南学舎・進明学舎・福德学舎）・黒湧学舎・眞誠学舎分校

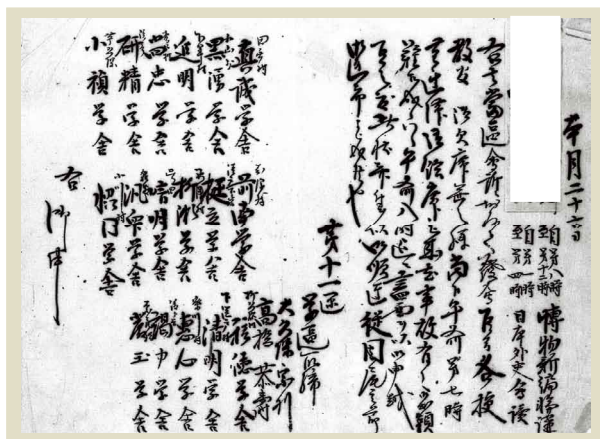
明治5年に公布された初めての近代教育制度である「学制」では、国民は平等に教育を受けることができ、小学校は必ず入学すべきものとされましたが、中央集権的な実施方法や過重な経費負担により、小学校の設置は思うように進まなかったのが実情でした。

東久留米市域の村々は、学制による第一大学区・第八中学区に属しました。また、明治6～7年には行政的な制度として大区小区制が実施され、市域の南沢村・柳窪新田が神奈川県第十一大区五小区、前沢村・柳窪村・下里村・門前村・神山村・落合村・小山村が同第十一大区六小区となりました。そして、明治7年に六小区の前沢村・下里村・柳窪村に「三併学舎」、門前村・神山村・落合村・小山村に「黒湧学舎」が初めての公立教育機関として設置され、それぞれの村には世話役が置かれたのです（写真右下・三併舎、黒湧学舎）。

三併学舎という名称は、三つの学舎を併せた通称と考えられ、『文部省第二年報・府県公立小学校表』（国立国会図書館所蔵）によれば、前沢村に前南学舎、下里村に進明学舎、柳窪村に福德学舎が明治7年に設置され、教員数や生徒数が記載されています。位置等是不明ですが、前南学舎は前沢村米津寺にあったという伝承があります（第一小学校『沿革誌』）。また、小山村文書（写真左下）のなかにも当時の17ヶ村の学舎が明示されており、そのなかに前南学舎・進明学舎・福德学舎の名がみられ、村名と学舎名が年報と一致しています。

黒湧学舎については、小山村文書のなかに小山村・神山村・門前村・落合村の4ヶ村で設置したことや、「当区内小山村黒湧学舎校堂場所過日出頭評定之上取極メニ相成ニ付テハ（以下略）」とあるように、当時小山村にあったことを示す記述が残されている他、『小学舎規則』『出席簿』『公用留』などの黒湧学舎関係資料の存在が確認されています。

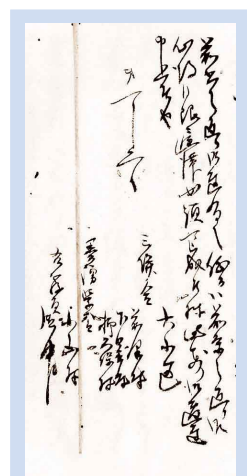
五小区に属していた南沢村・柳窪新田については、同じ五小区田無村の密蔵院という寺院に置かれた眞誠学舎との関係が深いようで、眞誠学舎分校が南沢村の多聞寺に設けられたとされており、眞誠学舎関係書類には、南沢村世話役の人の名前が記されています（『田無市教育百年史』など）。このような初期の小学校は、江戸時代からの寺子屋や私塾などの教育機関を引き継いで設置されたものが多いといわれています。



講演会開催通知・明治7年（市史文書・小山・Y・19 - 28）左に第十一区の村と学舎が列挙されている

左の村名と学舎名
 （表記どおり）

田無村	眞誠学舎
小山村	黒湧学舎
下里村	進明学舎
野口村	尚忠学舎
清水	研精学舎
芋久保	小禎学舎
前澤村	前南学舎
清戸下宿	挺立学舎
秋津村	柳瀬学舎
廻り田	陽明学舎
蔵敷	汎衆学舎
小川村	協同学舎
柳久保村	福德学舎
下清戸村	清明学舎
桑川村	恵心学舎
後ヶ谷	竭力学舎
奈良橋	荒玉学舎



公用留・明治7年
 （市史文書・小山・Y・1 - 14）

明治8年6月に神奈川県は、管内小学舎の名称変更の通達を出しました。その内容は、一村一校の場合は必ず村名と同一とし、複数の村で設置している場合は従前の通りでもよいこと。また、これまでの「学舎」の名称を「学校」と改称することなどの内容です（『神奈川県教育史』資料1）。この頃になると全国に約24000の学校が開設され、現在の小学校数（約26000校）と匹敵するような数となりました（下表・文部科学省『学制百年史』）。

この通達により、それぞれの学舎は第1表のような名称に変更されたと考えられます。『日本帝国文部省年報・明治八年公立小学校一覧表』によれば、前南学舎が前澤学校、進明学舎が下里学校、福德学舎が柳久保学校とそれぞれの村名をつけた学校に、さらに黒湧学舎は小山学校に改称されています。なお、下里学校は前澤学校と合併と記載されていることから、同一の教場（民家借用）を使用していたことが推測されます。ただし、翌明治9年の一覧表では柳窪前澤学校（寺院借用）となっており、柳窪村と前沢村が一緒になっています。このように当時の学校に対する村の取り組みの複雑さがうかがえます。

黒湧学舎は小山村にあったことが当時の文書で確認されており、そのまま小山学校に改称され、門前村・神山村・落合村・小山村の教場（寺院借用）になっていたようです。ただし、明治9年の一覧表には門前学校（寺院）の名もみられ、小山村文書のなかにも門前学校関係資料が存在することから、一時、別になっていた時期があったようです。

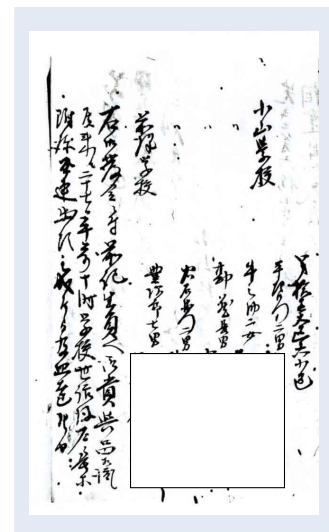
五小区に属していた南沢村と柳窪新田では、田無村の眞誠学舎が田無学校と改められ、南沢村の分校も田無学校分校となりました。田無学校関係文書のなかには「田無学校・同分校・柳窪新田 右世話役・村用掛御中」という回章（『田無教育百年史』資料94）が残されています。

明治	学校数	教員数	児童数
6年	12,588	25,531	1,145,802
7年	20,017	36,866	1,717,768
8年	24,303	44,664	1,928,152

また、明治9年3月の小山村『御用留』・田無村『公書留』の「試験結果優等生発表通知」には六小区の小山学校・前澤学校、五小区の田無学校・同分校の名が列記されており、この時期の公立小学校の主な名称を示しているものと考えてよいでしょう。

六小区試験結果優等生発表通知
小山村『御用留』・明治9年3月
(市史文書・小山・Y・1-6)

試験結果の優秀な子供を学校ごとに発表したもので、小山学校・前沢学校の名があります。西東京市の文書（七・六・五小区試験結果優等生発表通知・『田無教育百年史』資料102）では、五～七小区の優等生が発表されており、五小区田無学校分校の箇所には南沢村に多い姓のみが列挙されているのが特徴的で、田無学校分校が南沢村に置かれていた可能性が指摘されます。



明治八年府県公立小学校一覧表

名称	地名	設立年	新築 旧屋	公有 借用	教員		生徒		授業 料	扶助料配付額	
					男	女	男	女		円	銭厘
柳久保学校	柳久保村	明治7年	寺院	借用	1	-	14	13	無	10	901
前澤学校	前澤村	明治7年	民家	借用	1	-	37	10	有	10	901
小山学校	小山村	明治7年	寺院	借用	1	-	32	15	有	16	571
下里学校	前澤村	明治7年	前澤 合併	-	1	-	23	-	無	10	901
参考											
田無学校	田無村	明治7年	寺院	-	4	-	147	86	有	25	811

明治九年府県公立小学校一覧表

名称	地名	設立年	新築 旧屋	公有 借用	教員		生徒		授業 料	扶助料配付額	
					男	女	男	女		円	銭厘
門前学校	門前村	明治9年	寺院	-	2	-	43	26	有	42	485
柳窪前澤学校	柳窪前澤村	明治7年	寺院	-	2	-	68	41	無	155	776
小山学校	小山村	明治7年	寺院	-	1	-	24	15	有	25	963
下里学校	下里村	明治7年	民家	-	1	-	29	3	有	10	901
参考											
田無学校	田無村	明治7年	寺院	-	5	-	159	96	有	155	96

明治十年府県公立小学校一覧表

名称	地名	設立年	教場	教員		生徒		卒業 生	授業 料	扶助料配付額	
				男	女	男	女			円	銭厘
共立学校	南澤村	明治10年	4	3	-	97	47	-	有	123	661
成蹊学校	前澤村	明治10年	3	4	-	100	55	-	有	99	875
参考											
田無学校	田無村	明治7年	4	4	-	115	70	-	有	174	534

東久留米市域関連
明治初期公立小学校一覧
『日本帝国文部省第三・第四・第五年報』（国立国会図書館所蔵）より作成。右写真が原本。
東久留米市域内の村の順序は原本のとおり。表を横書きとし、数字を算用数字とした。

共立学校・成蹊学校

その後の公立小学校の名として登場するのが、成蹊学校と共立学校です。

『日本帝国文部省年報・明治十年公立小学校一覧表』によれば、共立学校・成蹊学校はともに明治10年の設立となっています。黒湧学舎→小山学校（門前学校）・田無学校分校の系列が共立学校になり、三併学舎（前南学舎・進明学舎・福德学舎）→前澤学校・下里学校・柳窪学校の系列が成蹊学校となりました。

共立学校

共立学校は、南沢村・小山村・門前村・神山村・落合村・（栗原新田）によって設置され、南沢村に置かれました。それまで南沢村は五小区の田無学校（分校）に属していましたが、明治10年3月にそれまでの小山学校関係の村々と同じ教育機関とすることになりました（市史文書・小山・Y・19-32）。共立学校は学制の第1大学区・第8中学区・第126番1小学で、文部省年報によれば、教員4名、生徒数154名（男97名・女47名）、教場は4となっています。学校の場所についての記録はありませんが、南沢村多聞寺に置かれたといわれる田無学校分校や明治9年1月の『皇国地誌』南沢村草稿、その後の共立学校の位置などから判断して多聞寺あるいはその敷地内の可能性が強いと思われます。なお、合併時の文書によれば、落合村・神山村・門前村は遠隔地のため門前村浄牧院を仮分校とすることが明記されています。

明治10年の一覧表で田無学校の生徒数が大幅に減少し、逆に小山学校の後身である共立学校の生徒数が前年と比較して急増しているのは、この時点で田無学校分校が共立学校に変わったのが理由ではないかと考えられます。そして、明治11年に大区小区制廃止、明治12年には「学制」の廃止と「教育令」の発布、明治18年（17年？）の南沢村673番多聞寺前に新築開校という経過をたどっていきます。



合併に関する文書・明治10年

（市史文書：市・小山・Y・19-32）



公立共立学校卒業証・明治14年

（市史文書：市・行・教証1）



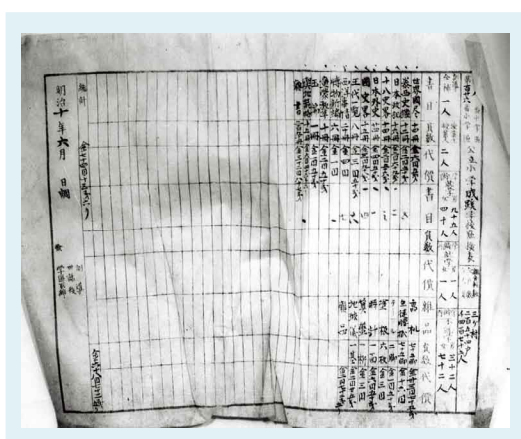
共立学校印

成蹊学校

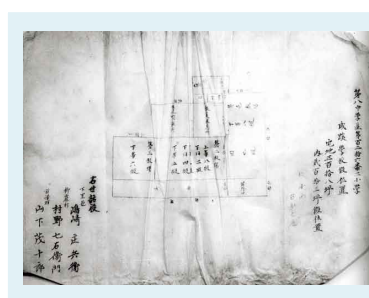
成蹊学校は、前沢村・下里村・柳窪村によって設置され、前沢村に置かれました。学制の第126番2小学で、文部省年報によれば教場3、教員3、生徒数155（男100・女55）となっています。前年までの前澤学校・下里学校・柳窪学校のときの状況から判断すると、当初は民家か寺院を借用していた可能性が高いと思われます。

『第八中学区第百二十六番二小学 成蹊学校仮位置』という表題で、学制時の学校番号が明記されている当時の教場の見取り図が残されていましたが（明治10年頃作成）、実際にこの建物があったかどうかを確認することはできません。図面では縦13間・横10間の規模で、3つの教場と職員休息所や生徒喫飯（きっぱん）所（食堂）がみられます。また、明治10年6月付の『公立小学成蹊学校点検票』には、3ヶ村で設立されたことや教員が3名（訓導1名・校業人2名）であったことなどが記載され、学校が所蔵していた蔵書や机・椅子などの点数や値段が列挙されています。

その後、成蹊学校は明治17年に前沢村69番地（現在の八幡町二丁目10番）に新築開校し、この年が現在の市立第一小学校の前身の公式な誕生の年とされています。

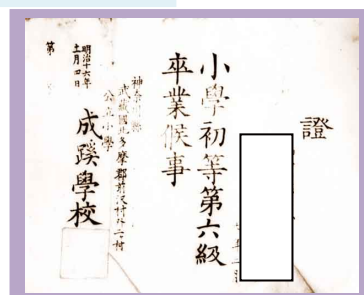


公立小学成蹊学校点検票
（市史文書・下里・SN・59）



成蹊学校仮位置
（市史文書・下里・SN・63）

成蹊学校卒業証書・明治16年
（市史文書・下里・SN・52）



明治10年に設立された共立学校と成蹊学校は、明治17年の新築開校、明治22年の久留米村の成立を経て、明治39年に両校が合併して久留米小学校となるまで、長い間公立の初等教育機関として機能したのです。（続く）

監修：岡田芳朗（女子美術大学名誉教授）、調査・執筆：山崎丈（郷土資料室）
資料協力：口岩宜徳、古文書所有・管理者（個人）

〔編集〕東久留米市郷土資料室（教育委員会生涯学習課文化財係）

〒203 - 0033

東京都東久留米市滝山4 - 3 - 14 東久留米市わくわく健康プラザ内

電話 042 - 472 - 0051 FAX042-472-0057